

# 主月税連

「青税精神」邁進中

シンポジウム・国際交流・税制改正への取り組みは？

Feb.15.2015 No. **169**

全国青年税理士連盟

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-12 代々木リビン401  
Tel 03(3354)4162 Fax 03(3354)4095

158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
**169**  
170  
171  
172

# Content

---

## 秋季シンポジウム 2014 in 千葉

---

### 納税者にとって公平・効率的な 税金のあり方を考える—— P.3~11

- 実行委員長総括報告 ————— 千葉青税 湯本 康弘 — 3
- 埼玉 「消費税・事業税を中心とした  
法人課税のタックス・ミックス」— 酒井 哲也 — 4
  - 東京 「所得税におけるタックス・ミックス  
～このままで良いのか?、所得区分～」— 梶田 義孝 — 5
  - 神奈川 「法人税を中心としたタックス・ミックス」— 深沢 智仁 — 6
  - 岐阜 「地方税制を『タックス・ミックス』  
から考える」— 担当者一同 — 8
  - 名古屋 「Tax Mix Remix  
～所得課税と消費課税の名青税的検討」— 濱田 和希 — 9
  - 近畿 「タックス・ミックス  
相続税 富裕層と一般の納税者」— 水野朝太郎 — 10

---

### 韓国税務士考試会 ————— P.11~13

- 韓国税務士考試会と勉強会 ————— 小林 弘隆 — 11
- 韓国税務士考試会總會 ————— 森 智之 — 12

---

### 全国青税定時總會 「さいたま大会」のご案内 — P.14

---

# 14年 秋季シンポジウム in 千葉 (千葉青税)

テーマ

## 『タックスミックス』

～納税者にとって公平・効率的な税収のあり方を考える～

平成26年11月8日  
千葉銀行文化プラザ音楽ホール



冒頭挨拶する  
坂本会長



## 実行委員長総括報告

### 2014年 秋季シンポジウムを終えて

秋季シンポジウム実行委員長 湯本 康弘



湯本実行委員長

2014年の全国青税秋季シンポジウムは、昨年11月8日千葉で開催されました。京葉銀行文化プラザ音楽ホールという本格的ホールの舞台上で開催したシンポジウムはいかがでしたでしょうか。広々とした舞台と素晴らしい音響、観客席は長時間座っていても疲れないうかふかの椅子、懇親会会場は少し狭かったのですがその分密度の濃い会話を楽しんで頂けたと思います。反面、運営におきまして少なから

ず不手際もあったと思いますがこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

一昨年夏、仙台の地で発足した坂井執行部で研究部長を拝命し、準備に時間をかけること約1年3ヶ月。まずは千葉シンポとしてのコンセプトを考えるとところからが始まりです。運営にかかる人数が限定的である千葉青税の特質を考えると派手なこととはできない。よって手作りであることを逆手にとり、低コスト・コンパクトな開催を唱い、目指すことにしました。

最初の難関は会場選定でした。千葉には広さをも兼ね備えたそこそこのグレードで、かつリーズブルなお値段のホテルは数に限りがあり、しかも東京駅からのアクセスが悪くないとな

るとかなり限定的になります。いくつか候補を探りましたが、ディズニーランドにほど近い新浦安駅近くのホテルは綺麗ですが値段も高いため今回は優先順位を下げました。アクセスからすると市川、船橋が便利なのですが300人収容できるホテルはなし。ならばいっそ県庁所在地である千葉駅までご足労を賜ることになりますが、千葉県税理士会がよく研修に使用しているということで安い京葉銀行文化プラザに白羽の矢を立てました。

しかし、押さえるためにはまず抽選に勝たなくてはなりません。借りる日の一年前当日を含む月の月初1日、即ち2013年11月1日が運命の日。朝10時に会場を押さえに行ったところ他に2組の希望者がいました。倍率3倍、時期的にもまさにプロ野球のドラフトです。千葉青税も抽選で外れた時の事を考え、同様に1日に予約解禁のホテルにも会員を派遣して携帯で連絡を取りながら、文化プラザが外れた時にすぐ押さえてくれるように準備しました。幸いにももう一方の抽選時間が30

分遅かったので、ハズレ一位を指名する余裕はあります。9時45分に到着し、いよいよ10時の抽選開始。よく神社のお神籤に使うような割り箸を筒から出すようなくじ引き。一番小さい数字を出した団体が当選です。予備抽選で一番になった私が最初に引いたところ、19番?!なんだそりゃ??3組しか抽選対象がないのにどんな数字?少なくとも一番小さくはないだろ・・・とかなり落胆しました。ところが、その後引いた2組は確か20番台と30番台。どんなくじ引きかよと思いつつもめでたく当選!会場選定し始めてからおよそ3ヶ月。かなり力が抜けました。会場が決まって半分仕事が終わったとその時は思いましたし、現在すべてが終了した後も会場選定が成功の鍵を握ったなど今でも思っています。お陰様でコスト的にも予算を100万円下回って決算を組むことができました。

その後は淡々と前年の近畿さんやその前の神奈川さんのやり方を踏襲しながら理事会の度に色々なことをお願いした各单位

会の皆様には本当によく頑張ってもらいました。先読み甘く、時間的にご無理をお掛けしたこともありましたが、論文集作成、当日の発表も大きな混乱なく恙無く終えることができたのも一重に単位会担当者のご尽力のお陰とっております。

当日は千葉青税も少ない人材をやり繰りしたため、重鎮の先生に外に立って頂いたり、走り回って頂き、本当に感謝の念に堪えません。かく言う私も進行にバタバタしましたが、その合間にも皆様の舞台を拝見し、とてもよく作りこんでいたと思えましたし、楽しませて頂きました。準備している最中はとても大変なこともありましたし、一年以上気は休まりませんでしたが、終わってみると充実感に溢れ、とてもいい思い出に個人的になったと思っております。最後に重ね重ねになりますが、今回ご尽力頂きました各单位会担当、千葉青税会員含め関わって頂いたすべての方々に深く感謝して私の感想とさせていただきます。ありがとうございました。

## 埼玉青税

酒井 哲也

### シンポジウムに 参加して

全青税秋季シンポジウムに参加してきました。

初めての参加で、本番では大変緊張してしまいましたが、無事終えることができ、今では達成感に満たされております。例えば8月の研究例会の時に、周りにいわれるままに、シンポジ



ウムへの参加を引き受けましたが、まず論文を作成するのに苦労しました。大学生の時に卒論

を書いて以来、論文を作成する機会がありませんでしたので、思うように原稿が進まず、図書

館で参考文献を探して何とか作成することができましたが、締め切りを数日超過してしまいました。

次に初めての読み合わせの時ですが、対談形式で原稿があるにもかかわらず、人前で発表することに慣れていないため、緊張してしまいスムーズに話すことができず、本番に向けて非常に不安になりました。

しかしながら、練習を重ねるうちに徐々に慣れてきて、本番を迎えることとなりました。

当日は、会場まで自宅より3時間弱かかって到着しました。思いのほか遠くて、行くだけで疲れてしまいました。会場では本番に向けて原稿のチェックを行いました。会場内に入ると舞台が確認でき、「あそこで発表するんだ。」と思うと、また緊張してきました。

いざ本番を迎え、セリフをは



きり言うことを心掛けて、自分なりに頑張りました。終わってみるとあっという間でした。少し残念だったのは、トップバッターのため聴衆が少なかったことですが、これにより緊張は少し和らぎました。

その後は、他団体の発表を観ました。各団体ともよく「タックス・ミックス」について研究されていて、内容もさることながら演出も凝っていて見ていて楽しかったです。とても参考になりました。

発表終了後、メイン(?)の懇親会でお酒を飲みながら、お互いの労をねぎらいました。とても楽しい一日となりました。

今回初めての参加でしたが、周りの方々のおかげで無事終わることができました。みんなで一つのテーマに沿って研究発表をすることは、自分の知識を深めることに加え、人間性の向上にも役に立つものであると感じました。次回以降も機会があれば積極的に参加していきたいと思います。

## 東京青税

梶田 義孝

### 秋季シンポジウム に参加して

本年11月8日千葉市内にある京葉銀行文化プラザで行われた「千葉シンポジウム」に参加しました。

私は昨年に引き続きの参加ということで、今回はシンポジウム委員長を担当させていただくことになりました。

今回東京青税では、「所得税の所得区分」をテーマとして選定しました。

まずは、論文の作成です。6月の後半から所得税関連の書籍を集めて、研究に入りました。



そして8月に2回の所得税の研究を行いメンバーを募り、8月末から週1~2回のペースで打ち合わせを行いました。

今回は、論文作成には新人会員からシンポジウムの経験豊富なベテラン会員まで、昨年のシンポジウム委員長の増原会員を含めた10人の会員に知恵を

出して協力していただき、9月30日の期限までに何とか論文を提出することができました。

11月8日の発表本番は、昨年に引続いて劇形式で行うことになりました。

テーマが「所得税の所得区分」ということで、劇にするのは難しい題材でしたが、トヨタ自動

車のReBORNのCM(木村拓哉、北野武などが出演)を参考にすることにしました。

今年、平成26年は次の東京五輪が開かれる6年前に当たります。そして、前に東京五輪が開かれた昭和39年の6年前は昭和33年になります。そこで、昭和33年と平成26年の人々の仕事・生活の変化をもとに、所得区分をどう見直して行くかという点に焦点を当てて劇を作っていくことにしました。

劇の脚本の作成は、阿部会員にお願いして、良く練られた面白いストーリーの脚本が出来上がりました。

今回は、劇の出演者が合計で11人と多くなったため、論文作成のメンバーだけでは足りず、追加メンバーを募らなければなりませんでした。そこで多くの会員に声をかけたところ、新たに芳賀東京青税現会長を含めて6人の会員が快く引き受けていただき、何とか劇の出演者を集めることができました。

10月中旬までに脚本の内容がカタマリ、10月末と11月上



シャープ博士とその弟子

旬には、東京税理士会館の地下会議室を借りて、本番さながらに予行演習をしました。

経験豊富な山本会員に監督になっていただき、厳しい指導を受けたおかげで、最初はセリフで棒読みだった者も、本番では見違えるように上達しました。

本番当日、出演者は全力を出し切って演技が終えることができました。

今回は、発表には司会役の大和屋会員、ハケン女子役の山崎会員、そしてパソコン係の野村会員という3人の昨年合格の新人会員にも出演していただきました。

今回のシンポジウムの発表への参加をきっかけに今後ますます活躍していただきたいという

ことで、来年以降のシンポジウムについては、新人会員が中心メンバーとなって行くことを期待しています。

私も、若手のメンバーに負けないよう今後も研鑽して行かなければと改めて気を引き締めて行く所存です。

最後に、今回の会場の設営をして下さった千葉青税会員の皆様をはじめ、シンポジウムの論文・発表準備の中で、忙しい中時間を割いてご協力をいただきました東京青税会員の皆様に、心より感謝を申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

## 神奈川青税

深沢 智仁

### 初めて秋季シンポジウムに参加して

「第1回秋季シンポジウム勉強会のお知らせ」神奈川青税からのメールを確認したのが7月でした。昨年税理士試験に合格し青税に入会したものの、実際の活動に関してはよくわかっていないことが多く、連絡を受ける度に色々な活動をしている



のだな、と感じています。今回は秋季シンポジウム、そのため

に大学教授を招いて勉強会を実施。



## 全青税 秋季シンポジウム 2014 in 千葉

『タックス・ミックス』  
納税者にとって公平・  
効率的な税収のあり方  
を考える

私は税理士登録したばかりでこの業界について詳しく分かっていません。しかし、シンポジウムとは、研究発表、公開討論の場であることは分かります。税の専門家のシンポジウムであるのだから、かなり高いレベルでの勉強会が続くに違いない、それくらいは私にも容易に想像できました。果たして私は勉強会についていけるのだろうか、不安に駆られました。そこで意を決して先輩会員に質問してみることにしました。私でも大丈夫なのか、そもそも青税におけるシンポジウムとは何なのか、ということ。

「シンポ? 寸劇みたいなもんだよ、かつらとかかぶってさ。」

私は衝撃を受け、思考停止しました。寸劇? かつら? 私が知っているシンポジウムにはそんな単語は出てきません。私の知っているシンポジウムとは何だったのだろうか、価値観が揺らぎました。逆に自分に務まるのか不安になりました。しかし、私の担当は論文の一部を書くことと、発表の際に使用するスライドの作成及び当日の操作となったため、それならなんとかなりそうだと感じ、私は可能な限り勉強会に参加することとなりました。

全てが終わった今振り返って

みると、勉強会、論文作成、発表練習、発表を通じ非常に勉強になりました。普段は日常業務に追われてしまい、なかなかタックス・ミックスについてじっくりと考える機会がありませんでした。そもそも私は租税法の知識が乏しいので、大学の図書館に通って租税法の基本書を読むことから始めました。大学時代でさえ図書館に足を踏み入れることのなかった不真面目な私には、有意義な時間となりました。みんなで集まって行う勉強会に関しても、他のメンバーの意見を聴くこと、それを受けて自分で考えることはとても勉強になりました。どのメンバーも難しいテーマにも関わらず真剣に取り組まれていたのが印象的でした。特に開業税理士として多忙を極めるY制度部長がタイトな日程の中で陣頭指揮を執る姿には感銘を受けました。なかなか具体化しない話し合い、様々な意見により錯綜した話し合いとなったときでさえも、次の勉強会までには無から有を生み出す錬金術師のごとく次の話し合いへ進めるようなドキュメントを用意しメンバーに提供、そしてその繰り返しで完成に至りました。出来る人間とはこういうものなのか、私ももっと頑張らなければ、と思いました。バイキ

ング小峠さん・・・ではなくH研究部長が発表のためならば、ときちんとVTRでインプットし、「なんて日だ!!」の練習を積んできたこと、努力の大切さを改めて学ばせていただきました。実際の発表では、「なんて日だ!!」の発声の後、場内は静寂に包まれたような気がしないでもないのですが、私もパワーポイントの操作を一瞬忘れるほど迫真の演技に引き込まれたからです。きっとそうです。

最後になりましたが、今回携わった全ての皆様、そして何より私がプロの設備運営の方々と間違えてしまった千葉青税の皆様、とても貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



## 岐 阜 青 年

秋季シンポジウム担当者一同

### 秋季シンポジウムに 参加して



千葉青税の皆様、この度は秋季シンポジウムの企画、運営にご尽力いただきまして、本当にありがとうございました。今回初めて千葉県に行きましたが(夢の国は岐阜県民には東京という認識)、岐阜市と千葉市は同じ県庁所在地でありながら、こんなにも違うのかとジェラシーさえ覚えた。ビルの高さや歩行者数の多さに驚いたことはさることながら、一番驚いたのは、JRや私鉄だけでなく「モノレールも乗れ〜る」ことである。

そして、全国各地の各单位青税会員の皆様、この度は有意義な時間を共有することができ、とても感謝しています。ありがとうございました。

我々岐阜青年税理士連盟が活動する岐阜県には、このほどユネスコの無形文化遺産に登録された美濃市の「本美濃紙」をはじめ、長良川の「鶺鴒」、関市の「刃物」、高山市の「一位一刀彫」など、数々の伝統工芸、伝統技術が存在し、現世に受け継

がれている。今回の秋季シンポジウムの発表も、岐阜青税の数々の先輩達が築き上げてきた伝統を壊すわけにはいかないという強い信念のもと、担当者一同全力で取り組み、見事伝統を受け継ぐことに成功したと自負している。そして今後もその伝統を秋季シンポジウムで発表する予定である。

我々の発表をご覧になった方の中には、岐阜は下品で、ただふざけているだけだと思われた方もおられるかもしれないが、論文だけでは表現できなかったものを発表の場で表現させていただいた次第である。我々は今回「地方税制を『タックス・ミックス』から考える」というテーマをいただき、初めは抽象的で取り組みにくかったが、研究してみると地方財政の様々な問題点や地域間格差など、多くの発見があった。そうした背景の中「地方都市の財政再建」をテーマに作品が出来上がったのである。白雪姫風のキャストは単独財政では存続が厳しい地方都市を表現し(劇中では倒れていましたが・・・)、その地方都市を様々な方法で再建に導くため努力している姿でタックス・ミックスを表現させていただいた。ただ

ふざけていただけではなく、テーマに沿った発表であり、そういう意図を含んでいたことを汲み取っていただけたら幸いである。

そもそも我々青税新入会員からしたら、論文、発表と寝耳に水で、N々村兵庫県議のように号泣したい日々の連続であった。しかし、打ち合わせでは、実行委員長を中心に有意義な意見交換ができ、「くだらない事こそ真剣に!」の精神で、笑いの絶えない充実したものになり、改めて岐阜青税の団結力の強さを実感した。O保方氏やS村河内氏の画像を使用する際、無修正の画像(卑猥なヤツではない)はマズいという結論になり、目線入りの画像を使用した。いざ他の単位青税の発表を拝見したら、無修正の画像(卑猥なヤツではない)を使用していたので、来年以降の画像(卑猥なヤツではない)使用のボーダーラインがわかったような気がした。

最後に、論文、そしてこの原稿と、私にもN垣氏のような優秀なゴーストライターがいたら、どんなに楽だったか・・・。

なお、S木東京都議のようなヤジは一切受け付けておりません。



白雪姫風?



# 名古屋青税

濱田 和 希

## 全青シンポに 参加して

今年から青税に参加させていただき、初めての全青シンポとなりました。

今年の全青シンポの担当が研究部であることは知らされていましたが、どのような準備が必要なのか、どれくらいの負担があるのか等全く分からない状態でしたので、当初は不安が大きかったことを覚えています。しかも、テーマはタックスミックスということで、締切までに形にできるのだろうかという不安もありました。

部会では、考察の対象を設定するところから始まり、考察の対象がある程度決まったら、総論、所得課税、消費課税の各チームに分かれて、各税目につ



いての研究を進めました。しかし、各税目の長所、短所を議論するだけでは不十分です。各税目の長所、短所を十分にふまえつつ、全体として、納税者にとって公平・効率的な税収のあり方を提示する必要があります。大学教授を部会に招いて質問したり、研修会を開催したりして、さらに研究を進めました。

原稿を提出すると、次は発表の方式についてです。私個人としては、できあがった原稿をどう寸劇として組み立てるかにつ

いて考える余裕は全くありませんでしたが、部長・副部長を中心に自然にできあがったシナリオに沿って、各部員がアイデアを出しあいながら完成させてきました。配役はすんなり決まったものの、完成したのは発表の数時間前でした。

名古屋青税のひとつ前で発表した岐阜青税とキャラがかぶってしまったらしいことは失敗でしたが、岐阜青税の発表を十分見る余裕がなかったため（見ていなかったため）、気にするこ

### — 懇親会風景 —



東京青税が秋季シンポPR

となく自分たちの発表ができたことは結果的にはよかったのかなと思います。

楽しみにしていた夜の打上げは、大いに盛り上がりました。1月に迫った名青シンポでは、全青シンポでの成果をベースに、さらに充実したものになりたいと思います。



全員集合

## 近畿青税

水野 朝太郎

### 秋季シンポジウムに参加して

平成26年11月8日(土)に千葉で行われました秋季シンポジウムに参加させて頂きました。シンポジウムの論文の執筆に始まり、当日の発表まで大変苦しい思いをしましたが、終わってみればやらせて頂いて良かったと感じております。

今回、近畿青税が担当するシンポジウムのテーマが相続税ということもあり、シンポジウムのお手伝いを気楽に引き受けたのは、今年の4月のことでした。そして7月後半には、秋季シンポ委員会が動き始め、論文のタイトルも「タックス・ミックス

相続税 富裕層と一般の納税者」と決まりました。論文を複数の執筆者で取り組むのも、与えられたテーマ・結論で書くもの初めての経験で要領が分からず四苦八苦しながら取り組みました。「平成25年の税制改正の基礎控除引き上げ・最高税率の引き上げを支持する」という結論に、プライマリーバランスや富裕層などを絡めるのが、本当に大変でした。まず、税務以外の富裕層やジニ係数などの勉強



集合写真

から始めなければいけない状態でしたので、参考資料を集め、それを読み込み、何度も何度も議論を重ね、実際に執筆するまでに多くの時間を割きました。

そしていざ、執筆を開始すると深い議論をした甲斐があり、主張をしたいことが多く、それらを全部書いてしまうとページ数が大幅にオーバーする事態に(笑)参考図やグラフはページ数にカウントしないという事でしたが、文字だけでも余裕でオーバーしてしまうボリュームになっていました。自分の執筆部分をカットするのは、何とも思いませんが、人の執筆部分を削る作業は、なかなか手が進まない作業でしたが、なんとか規定のページ数に収め、細部の調整をして論文が完成しました。可能であればもっと時間を掛けて内容を詰めて完成度の高いもの

にしたかったのですが…限られた時間の中でベストを尽くすことの難しさを痛感しました。

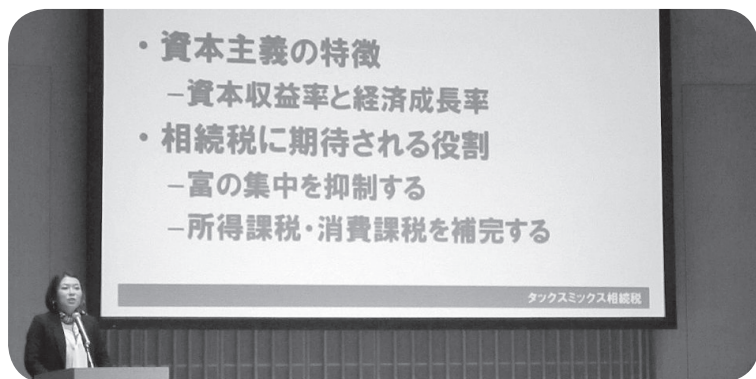
当分は完成の余韻に浸っていたのですが、シンポジウム当日の発表に向けた準備を行わないといけません。近畿青税は東京オリンピックの招致を真似たプレゼンを行うことに、すんなり決まりましたので、数回練習して本番とのんびり構えていましたが、当日発表する内容の原稿の作成、演出、小道具の準備などやらなければいけないことが多く、最後の1週間はかなりの時間と労力をとられました。本番では、私は発表者ではなく裏方に回りました。発表者の方々が発表直前まで熱心にセリフの暗記や練習をされていたのを見て少し羨ましく感じられました。発表自体は概ね好評だったのではないかと思います

し、その点についてはシンポジウムの論文の作成から取り組んできた身としては非常に嬉しく

思います。また、他の単位青税の方達も大変な苦勞をされて発表に臨まれたのだと思いますの

で、全ての発表を見る余裕が無かったことは残念でした。

最後に主催の千葉青税の皆様をはじめ、発表に関わられた各単位青税の皆様、シンポジウムに参加された全ての会員の皆様に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。また、近畿青税のシンポに関わられた皆様、本当にお疲れ様でした。



## 韓国税務士考試会との勉強会

総務部長 小林弘隆

「時が流れるのは早い」そんな当たり前のことを一人反芻しながら名古屋の金山にあるサイプレスガーデンホテルに向かった。2014年10月4日、この日は全国青年税理士連盟と韓国税務士考試会との勉強会の日だった。

思い起こせばこの勉強会が今の日韓交互開催という形式になったのが2010年の片山全国青税会長の時。あれから数えて今回は5回目の勉強会となる。

私自身、東京で開催された第1回の勉強会に国際部員として参加して以来、毎回この勉強会に参加している。今回も他国の制度を通じて自らの姿を客観視できるこの機会を楽しみにしていた。もちろん久しぶりに税務士の友人と会えることも楽しみだった。

今回の勉強会のテーマは「日韓両国の税務調査比較」について。身近なテーマだったこともあってか会場はほぼ満員だった。

両会から事前に配られているレジュメを簡単に説明がなされ、その後は質疑応答に入る。日韓



双方から活発な議論が繰り広げられた。毎回のことだが言語の壁がもどかしい。通訳を挟むとどうしても時間がかかるため多くの質問ができないのが残念でならない。その度に今度こそは韓国語を勉強しようと思うのだが…。

そんなもどかしさがありながらも勉強会は盛り上がった。そして最後に発言したのは考試会のアン・ヨンファン会長。この日の内容を総括した後、なぜいまだに日本では納税者権利憲章が制定されていないのか、疑問を呈された。

谷川法対策部長からは我々もまったく同じ思いで、制定に向けて活動している旨回答がなされたが、その場に居合わせた私を含めた青税会員は全員、襟を正される思いだっただろう。

勉強会の後の懇親会も大いに盛り上がった。考試会の皆さんは家族同伴で来日されている方も少なくなく、懇親会にはご家族にも参加していただいた。アットホームな雰囲気の中、各テーブルで小さな国際交流が繰り広げられていた。

ここでも言語の壁はあったが、英語を駆使したり、スマートフォ

ンの翻訳アプリを活用したりと、各々が工夫を凝らして親睦を深めていたことが印象深い。

三年前、この広報誌で私は勉強会の意義を「自明性の罠からの解放」にあると綴った。今回の勉強会でも自分たちが当たり前前に感じていることが、一步海

外に出た視点で見れば決して当たり前前ではないという現実を再認できた。

それは税制や税理士制度に限らず、生活習慣や文化にいたるすべてのことに関しても同様であろう。こうして見聞を広め、多角的な視野を獲得することは

必ずや日常の業務、あるいは青税活動に有効に作用すると確信している。

次回、ソウルではどんなテーマが選定され、どんな議論が展開されるだろうか。今から楽しみでならない。それまでには今度こそ韓国語の勉強を…。

## 韓国税務士考試会定期総会に参加して

国際部長 森 智之



2014年11月28日(金)に韓国税務士考試会第44回定期総会が韓国ソウルにて開催されました。全国青年税理士連盟から坂本和穂会長、小林弘隆総務部長、谷川洋平法対策部長、田村雅幸2015年全国大会実行委員長、櫻井繁樹経理部長、そして国際部長の私の6名が来賓として参加しました。総会当日にソウル入りする4名は、28日にそれ

ぞれ近隣の空港から朝便にて韓国に向けて出発しました。私を含む2名は羽田空港から金浦空港まで約2時間30分のフライトでした。金浦空港にはチェ・ジョンインさんとユン・ヒウォンさんに迎えに来て頂き、車で韓国の街並みを眺めながらソウル市内まで送迎をしていただきました。雨が降り出し道路が渋滞していたこともあり予定時間

よりもかなり遅れて昼食の場所であるコリアンハウスに到着しました。ここは韓国の伝統的な旧家をレストランや劇場に改装している複合施設で観光地になっている所ですが、レストランで別便の坂本会長、小林総務部長、数日前に韓国入りしていた谷川法対策部長、櫻井経理部長と合流し、韓国の伝統料理を頂きました。栗が生のまま出てきたのは、日本では食べたことがない方法でしたので少し驚きました。楽しい食事が終わり、宿泊先であるソウルパレスホテルまで車で移動しました。ソウルパレスホテルは定期総会が行われる会場でもあり、総会会場までの移動が無く非常に楽でした。朝が早かったので総会が始まる17時まで部屋でゆっくりさせて頂きました。

時間になり、総会会場に向かいました。考試会は会長と執行部が2年の任期になっており、今年には会長が交代する年にあたります。アン・ヨンファン会長が退任され、ク・ジェイ氏が新会長に就任することになっています。総会会場に入る前に別室に案内され考試会の新旧執行部



坂本会長



アン・ヨンファン会長

## 記念品の贈呈



の皆様と自己紹介と名刺交換を行いました。その後、総会会場に移動し、定期総会が始まりました。総会は懇親会と同じ会場で行われますので懇親会用の丸テーブルに着席して総会を見守ります。オープニングでは、1年間の活動を振り返るスライド映像が音楽付きで壇上の画面に映し出されました。全国青税の岐阜大会や名古屋の勉強会の様子も映像に映し出され、全国青税との交流を大切にしていると感じました。映像が終了すると、すぐにアン・ヨンファン会長の退任の挨拶、ク・ジェイ新会長の挨拶が行われました。韓国語のため何を話されているのか全く理解できなかったのですが、アン・ヨンファン会長が退任挨拶の後、壇上で満面の笑みを浮かべて万歳をしていたのが印象的でした。会長職を全うした事とその重責から解放された事の喜びの笑顔であったと思います。本当に2年間お疲れ様でした。

新旧会長の挨拶の後、来賓挨拶が始まり、坂本会長の順番になりました。ここ数年の会長のお決まりになっている全て韓国語による挨拶が、坂本会長よりなされました。会場の反応も良かったので特訓の成果が出たのではないかと思います。

来賓挨拶が終了すると、表彰式が始まりました。考試会会員が壇上に登り、ク・ジェイ新会長から表彰を受けていました。表彰が終わるとク・ジェイ新会長自らが総会議案（だと思えますが）を読み上げ、手にした木槌で木板を打ち鳴らします。これが決議の合図と言ったところでしょうか。2年前に参加した時も同様でしたが、質問は無く、文章を読み上げて木槌を打ち鳴らすという形式になっているようです。全国青税の総会の様に議案を提案し質問を受けると言ったような流れで議案審議が行われている様子はありませんので、日本とは少し定期総会の位置づけに違いがある様です。

ク・ジェイ新会長の提案が終了して懇親会が始まるのかと思いましたが、遅れてきた来賓の

方々の挨拶が始まりました。当初のタイムスケジュールにはあまり囚われない様です。来賓の挨拶が終わり、定刻をオーバーして総会が遂に終了しました。総会終了と同時に、食事とお酒が運ばれてきて懇親会が始まりました。懇親会では、歌手による歌の披露やタレントの司会によるクイズなどが行われました。懇親会がつつがなく終了した後は、ホテルを出て、二次会会場に向かいました。二次会はカラオケ、更に、三次会は焼き肉へと続けました。今回は1泊2日の韓国訪問で朝が早かったということと翌日のことも考えて少しセーブしたかったのですが、深夜の焼き肉が美味しくかなり食べてしまいました。

翌日はソウル市内を観光し、昼のランチを頂くなど様々な企画を用意して頂き大変思い出に残る2日間の韓国訪問でした。

最後になりますが、全国青税の活動の一つであるこのような国際交流が、お互いの国をより良く理解する契機となり、また、日韓両国の税理士制度がより良く発展する一助となれば幸いです。考試会の皆様本当にありがとうございました。



総会後の懇親会

# さいたま大会 参加のお願い

## 全国青税さいたま大会

実行委員長 田村雅幸 (埼玉)

2008年8月3日にさいたま新都心で開催された全国大会から7年ぶりに、埼玉青税が担当して2015年8月9日(日)にさいたま大会が再びさいたま新都心で開催されます。会場としては、今回は全ての行事をさいたま新都心のラフレさいたまで行いましたが、今回はラフレさいたまで講演会と定時総会を開催し、徒歩3分ほどにあるプリランテ武蔵野へ移動しての懇親会となります。

全国青税に参加している単位青税としては規模が小さい埼玉青税としましては、会員総出で準備を進めることになりそうです。年が明けていよいよ準備が本格化しようとしています。7年前の実行委員から主要メンバーが大幅に入れ替わり、前回の実行委員からの温かいアドバイスをいただきながら若手(?)を中心としたメンバーで内容を検討しているところです。

現状で決まっている内容とし

ましては、第1部では元観光庁長官、現在さいたま市の観光政策アドバイザーを務めていらっしゃる溝畑宏氏を講師にお招きして講演会を予定しています。第2部は全国大会のメイン行事である定時総会です。執行部交代を経て、第3部は恒例の懇親会となります。

アットホームが売りの埼玉青税としては派手な演出は苦手なところではありますが、「あったかい」さいたま大会にすべく全力で準備を進めております。真夏の暑さでは全国有数の埼玉県です。参加



全国青年税理士連盟  
第48回  
さいたま大会

まってるよー!  
みんな、来てね!

埼玉県のマスコット  
コバトン

2015年8月9日(日)  
さいたま新都心  
定時総会 / ラフレ埼玉  
懇親会 / ホテルプリランテ武蔵野

される方も熱い気持ちで、ぜひ多数の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

## あとがき

今回は、昨年11月に開催されました秋季シンポジウムin千葉、韓国税務士考試会との勉強会、韓国税務士考試会の定期

総会を中心に報告記事となりました。確定申告時期体調に十分留意し、本業に邁進しましょう。  
広報部長 小森秀子

